



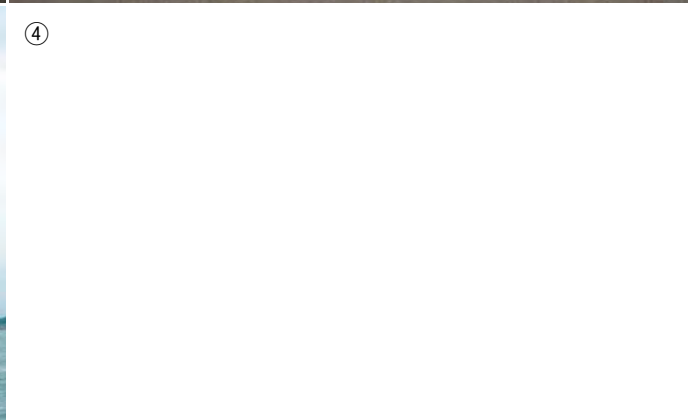
①



②



③



④

## 写真で見る社会科

### パキスタン村(富山県射水市)

(④は読売新聞社提供)

富山新港(伏木富山港)近くの射水市国道8号線沿いにパキスタン村と俗によばれているパキスタン人が経営する中古車自動車の販売会社の密集地域がある。

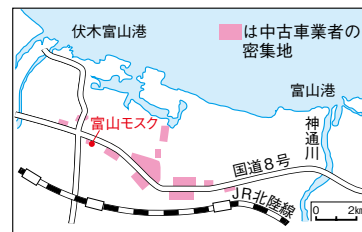
1980年代後半から、ロシア向けの中古車の輸出が始まった。パキスタン人がこの地域に店を初めてオープンさせたのは1991年のことである。その後、富山新港周辺に空地がたくさんあったことや95年に国の規制が緩和され、手荷物として車を3台まで国外に持ち出せるようになったことからパキスタン人業者が急増し、現在、100社を超すまでになっている。田んぼを埋め立てた土地やレジャー施設、工場などの跡地をフェンスで囲み、中古車が所狭しと並べられている。店の入口には事務所のプレハブが建てられている(写真①)。

おもにロシア人を相手に中古車販売が行われ、多くのロシア人が買い付けに来ている。そのため、この地域では、港から自転車に乗って、中古車業者を回っているロシア人の姿が目立つ。展示された中古車の前では、パキスタン人とロシア人が取り引きしている姿が見受けられる。ひげをはやし、民族衣装を着たパキスタン人に対し、ロシア人は短パンにTシャツと軽装である。

写真④はイスラームの礼拝所(モスク)の外観である。富山モスクとして、2001年に開設された。パキスタン人が寄付金を集め、建てたもので、県内唯一のモスクである。コンビニエンスストアの建物と跡地を利用しているため、注意してみないとそれとはわからない。アラビア語で大きく「ラー、イラーハ、イッラッラー、ムハンマドゥルラスールッラー」(アッラーのほかには神はなし)と書かれている。毎日、礼拝

が5回行われる。礼拝の後、モスクの前で抱き合ったり握手をしたりしている姿がみられる。金曜日には集団礼拝が行われ、200人以上の人が集う。付近一帯はイスラームの雰囲気には包まれているとはいえないが、モスクのすぐ近くにパキスタン料理店が数軒ある。

2005年度の伏木富山港の貿易概況は輸出が1586億円、輸入が2620億円である。輸出の内訳は自動車29.2%、一般機械10.6%、非鉄金属10.1%、スライドファスナー9.8%、プラスチック7.7%、その他32.6%と自動車3割を占めている。主要地域(国)別では、ロシア30.1%、大韓民国21.4%、中華人民共和国19.1%、台湾5.6%、アメリカ合衆国4.3%とロシアが3割を占めている。自動車、ロシア貿易はいずれも対前年比2.4倍であった。ロシア向け中古車輸出の大幅増が要因である(写真③)。こうした貿易傾向が今後も続く予想されるなか、ロシア人とパキスタン人の売買にかかわるトラブル(写真②)や、民家のすぐ隣に中古車置き場がつくられるため積載車の違法駐車やごみの不法投棄などのトラブルも生じている。地域住民とのトラブルを解消するよう対応が模索されている。(富山県 小杉南中学校 竹脇久雄)



## 写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。